

大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7-11
府教育会館704号
TEL 06-6765-8904
FAX 06-6765-8905

2021 衆議院選挙

岸田新首相が10月4日に14日解散、19日公示、31日投票で衆議院選挙を行うことを表明しました。今回の衆議院選挙は、今後の日本社会のあり方が問われる選挙であり、国民のいのちとくらしを守る政治への転換、憲法9条改憲阻止など、日本の命運がかかった一大政治戦となります。

国民の願いに背を向ける岸田自公政権

安倍・菅政権による憲法違反の安保法制、特定秘密保護法、共謀罪の強行など、憲法をじゅうりんする政治が横行しています。また、新自由主義・規制緩和、企業の利潤追求を最優先する政策で貧困と格差拡大が止まりません。しかし、岸田首相は8日の衆議院・参議院の所信表明演説で、安倍・菅政治の転換をいっさい示すことができませんでした。安倍・菅政権のコロナ失政には無反省、「新しい資本主義」と称するアベノミクスの継続、日米軍事同盟強化と辺野古新基地の推進を表明し、森友・加計疑惑などの国政私物化、学術会議委員の任命拒否など民主主義破壊にもいっさい触れず、安倍・菅直系の政権の本質が早くも明らかにになりました。岸田首相は、自民党総裁選で、「総裁在任中に改憲の実現をめざす」と主張しています。自民党がもくろむ改憲とは、憲法9条に自衛隊を書き込むことで、自衛隊がアメリカとともに、世界のどこでも戦争できる国づくりをすすめるためのものです。また、改憲に固執し、過去の戦争を美化する「靖国派」で知られる政治家が自民党役員や閣僚に少なくないことも重大です。安倍氏に近い高市早苗氏が、政調会長に就任していることは、改憲推進への執念にほかなりません。選挙の結果次第では、改憲の動きが一気に加速する危険性があります。

国民のいのちとくらしを優先する政治を

新型コロナウイルス感染症では、自公政権の無為無策と五輪開催の逆行によって感染爆発と医療崩壊が引き起こされました。8月には自宅療養で命を落とす人が250人にのぼり、国民のいのちが奪われる深刻な事態となりました。維新新政の逆風によって、大阪はコロナ感染による死者が全国ワースト。その原因には、「なんでも民営化」「自己責任」を押し付ける維新政治のもとで、市立住吉市民病院をつぶし、病床削減・保健師減がすすまっています。今後、「第6波」に備えて、大規模検査で無症状者感染者を発見・保護することが不可欠です。長引く自粛要請には十分な補償が、奮闘する医療現場には減収補填が必要で、科学に背を向け国民に犠牲を強いる政治を変え、国民のいのちと暮らしを優先する政治の実現が求められます。

教育予算の増額、障がい児学校の大増設を

教育予算はOECD平均をはるかに下回っているのに、軍事費は毎年過去最高を更新し6兆円近い金額に膨れています。憲法違反の敵基地攻撃能力の保有が検討されるなど、軍事費増額にさらに拍車がかかる恐れがあります。軍事費ではなく、教育費に充てれば、教職員を増やして異常な長時間過密労働の解消が可能とされています。今、問われているのは、立憲主義・民主主義・平和主義など、日本国憲法の土台を踏みこむ政府を許すのかどうかです。2021年9月8日には、市民連合と野党4党の20項目の共通政策も結ばれるなど、全国の小選挙区で事実上の野党候補の一本化がすすめられています。今度の政治戦は、要求を実現する絶好のチャンスです。政治が変わればくらしも教育も大きく変わります。大障教は、立憲主義を取り戻し、憲法9条を守り生かし、子どもと教育を守る立場から、積極的な参政権の行使を教職員の皆さんに呼びかけます。

書記局の TUSIJU

2021年のノーベル物理学賞は、地球温暖化予測の研究に大きく貢献した米プリンストン大学の真鍋淑郎(すけのり)氏に授与されることになりました。

地球の気候は、大気、海洋、陸地面などの複雑な相互作用で決まります。3氏は、こうした現象を物理学で理論化する革命的な貢献をしたと評価されました。

真鍋氏は、大気を「地面から垂直に立った1本の円柱」と仮定し、高度ごとの温度を計算する「1次元大気モデル」を考案しました。そして、二酸化炭素(CO2)の倍増により、世界の気温が2度上昇することを1967年に発表しました。これが地球温暖化予測の基礎となる画期的な研究となりました。

1969年には、大気全体の流れを海洋の影響も組み込んでシミュレーションする「大気・海洋結合モデル」を発表し、複雑な気候を予測する基礎をつくりました。真鍋氏と同時に受賞するドイツのクラウス・ハッセルマン教授は、地球温度に対する人間の影響を特定する方法を開発しました。

真鍋氏も関わって、国連「気候変動に関する政府間パネル」の第一次報告書が作成された1990年当時、人為的なCO2放出による気候変動に疑義を唱える見解も数多くありました。しかし、その後の研究を踏まえて今年発表された第6次報告書は、「今の異常気象の多くは人間活動が原因」であることは「疑いの余地が無い」と断じました。今後20年以内に地球の平均気温が、産業革命前より1.5度上昇する可能性が指摘された今、半世紀にわたる研究の積み重ねに基づき、科学者の警告をどう受け止めるのか、社会全体が鋭く問われています。

部内資料

10月31日
投票日

選挙に行こう!

市民と野党の共闘で政権交代
憲法を守り教育を大切にする政治を実現しよう

大障教定期大会 発言ダイジェスト(その3)

共同広げて学校建設署名4000筆超

寝屋川支援分会 門田代議員

「新しい支援学校を」この要求は保護者・教職員の大きな願いです。寝屋川分会では、府議会請願署名運動が始まった3年前からPTA役員さんとの懇談を持ち、意見交流を行っています。「小・中・高の12年間、地元の支援学校に通わせることが保護者の最大の願いである」ということを確認しあって、毎年署名活動に大きな力を注いでくださっています。

また、分会は昨年、卒業生が通う事業所を回りましたが、快く署名活動に協力いただきました。昨年度、分会と保護者が集めた署名は4000筆を超えました。

寝屋川支援学校では、2015年に枚方支援学校が開校した後も、児童生徒数が増え続け、今年度は小学部だけで162人が在籍しています。

教員配置が年々厳しくなり、今年度は2年生から6年生までのほとんどのクラスがふたり担任で6人の児童を受け持っています。

新型コロナ予防対策で密を避ける体制づくりが求められています。教室不足のため廊下で授業を行わなければならないグループがあります。

静養室はエアコンがない入室の脱衣場です。分会が要求し購入したスポーツクーラーと扇風機で対応しています。

子どもたちの健康を守り、学習環境を整え、私たちの労働環境を守るためにも、早急な支援学校建設が必要です。

栄養教諭の妊娠軽減 不妊治療休暇の要求実現

女性部 中村代議員



女性部は7月3日に総会を行いました。オンライン参加も含めて29分会36人の参加があり、分会から様々な実情が報告されました。

病休者が増えその代替が見つからない、栄養教諭の妊娠軽減の制度ができたこと、

女性部は7月3日に総会を行いました。オンライン参加も含めて29分会36人の参加があり、分会から様々な実情が報告されました。

病休者が増えその代替が見つからない、栄養教諭の妊娠軽減の制度ができたこと、



中途視覚障害者の自立の場を守るために

「大阪北視覚支援学校の将来を考える会」を発足

2021年9月13日、府教委支援教育課は校長会において、「22年度入学検査以降、大阪府立大阪北視覚支援学校高等部『本科保健療科』の募集停止をおこなう」ことを明らかにしました。

大阪府立大阪北視覚支援学校(以下、北視覚支援学校)には高等部本科保健療科があります。本科保健療科は、中学校を卒業し、就業していたが中途障害などによって視力低下のため働くことが困難となった方が、高等部本科で

学びながら3年間であん摩マッサージ指圧師国家試験受験資格を取得する課程です。

1990年、府教委は「91年度から本科保健療科を募集停止する」と発表しました。市障教・府障教(当時)は保護者、同窓会、障害者団体他と共に、「中卒中途失明者の生存権、教育権、労働権を守れ」と大運動を展開し、府教委に募集停止を撤回させることができました。

今回再び、府教委は入学者の減少などを理由に、拙速な募集停止をうごかしました。入学者が減ってはいるものの、中卒中途視覚障害の方がゼロになったわけではなく、実際に入学相談の問い合わせもあり、北視覚支援学校では府教委の決定を撤回させるとともに、今後の学校のあり方を全校で考えていこうと、分会の呼びかけで「将来を考える会」が発足しました。今後、署名等さまざまな運動にとりくんでいきますので、幅広いご支援・協力をお願いいたします。



募集停止の問題点などについて話を聞く集會参加者

10月8日(金)17時から「北視覚の将来を考える会第1回集會」をおこない、小・中・高普・理療・寄宿から合わせて16名が参加しました。本科保健療科はあん摩師等法に基づき中学卒業歴の中途視覚障害者に対して設置されていることを伝え、そのような方が家庭を支えながら3年間学習し資格を取り社会自立していることを卒業生へのインタビューの中から紹介しました。募集停止の問題点として、前年度に知らされず周知期間なく打ち出されたことを特に強調し、教員削減による今後の全校運営にも影響が出る懸念も伝えました。撤回を求める職場署名に緊急にとりくむことを訴えました。集會に参加できなかった方を含め、本科保健療科の意義やこれまでの実態が全校に伝わり始め、存続が必要という声も出始めています。

大阪北視覚支援学校の将来を考える会 尾方剛

